

神戸映画資料館所蔵アニメーションフィルムのデジタルアーカイブ事業

特定非営利活動法人 プラネット映画保存ネットワーク

概要／課題

神戸映画資料館所蔵アニメーションの中には、複製化やデジタル化ができていないフィルム、さらには題名等が欠落し詳細が不明の作品が多数あったが、本事業の実施により成果を上げている。神戸映画資料館所蔵アニメーションのデジタル化と調査研究は、このコレクションを公開・活用するための基盤を構築するもので、日本アニメーション史の可視化の一端を担い、国内のみならず世界のアニメーション振興に資することにつながる。

事業開始時は、現存率の低い古典アニメーション（主に戦前の作品）に限定して調査してきたが、前年度からすべてのアニメーション目録作成に着手した。TV アニメーションのフィルムなどにも、権利元が保存していないものや、知られざるバージョンがある。

また、これまで同一作品で複数プリントがあるものは1本を選んでデジタル化してきたが、バージョン違いや欠落の有無などの違いがある可能性があり、それらが日本のアニメーション映画受容の一端を示すものであるため、これらのデジタル化も実施している。

本団体代表の安井喜雄がかつて企画編集した書籍『日本アニメーション映画史』（1977年、有文社刊）の作品目録改訂作業は、所蔵フィルムという現物の調査から判明した事実に基づいて修正、追記を進めており、他のデータベースにはない基礎情報としての信頼性、利用価値が見込まれ、メディア芸術データベースなどの既存データベースとの連携による活用が期待できる。さらに目録に掲載されていない神戸映画資料館所蔵作品の情報も加えることで、さまざまな研究の促進、不明作品の同定、そして新たな作品発掘の可能性が広がる。



体制／手法

- ① 神戸映画資料館所蔵アニメーションフィルムの目録作成
- ② アニメーションフィルムのデジタル化
- ③ 書籍「日本アニメーション映画史」作品目録（新版）の公開
- ④ 公開と発表

安井喜雄（神戸映画資料館） …統括

田中範子（神戸映画資料館） …データ統括

衣川太一（フィルム技術者） …フィルム調査
橋本英治（技術者）、麓貴広（神戸芸術工科大学） …デジタル化
野中和隆（アニメーション作家・研究） …紙フィルムデジタル化
松山ひとみ（アーキビスト） …公開用データの整理と改訂情報公開のための調整
板倉史明（映画研究／神戸大学） …成果報告（神戸発掘映画祭 2024）

成果

① 神戸発掘映画祭 2024（10 月開催）において、調査報告と上映を実施。

https://kobe-eiga.net/kdff/kdff_2024/program/

10 月 20 日（日）連携企画 参加無料 「アニメーション調査研究」

参考上映

『森の泣蟲坊や』1947/8 分 植田映画製作所

『ヤシノミ』1947 年頃/10 分 荒井和五郎

『赤い井戸』1960 年/12 分 森園忠

解説：板倉史明（神戸大学教授）

ゲスト報告：澤田晶子（占領期の鳥取を学ぶ会）

これまで数年にわたり「文化庁メディア芸術アーカイブ推進支援事業」の助成を受け、神戸映画資料館が所蔵するアニメーション作品の網羅的調査を実施してきた。本報告では、これまでの調査成果を踏まえて、従来の目録には存在しなかった新発見フィルムの上映や、これまでほとんど再上映されてこなかった作品をまとめて上映するほか、『日本アニメーション映画史』（1977 年/有文社）の作品目録を新たな調査の上で大幅改訂に踏み切ったが、改訂版完成の意義について解説する。



② デジタル化済み作品の抜粋映像クリップをインターネット上で公開(約 20 本／NFAJ「日本アニメーション映画クラシックス」に無いものを優先)。

<https://kobe-eiga.net/cinema/research/>

③ 『日本アニメーション映画史』作品目録（新版）をインターネット上で公開。

<https://www.nihon-animation-eigashi.com/work-db/>